

特定非営利活動法人 NPOカタリバ

「私は将来に不安を感じる」77.7%。「私は価値のある人間だとは思わない」62.7%。「自分が参加しても、社会は変わらない」68.3%——。現代の高校生たちのホンネだ。そんな彼らの内なる心に火を灯して低い自己評価を覆し、キャリア学習支援事業を行う「NPOカタリバ」。その熱い想いと活動を紹介したい。

取材・文／松見敬彦（トリガーワークス）

「ナナメの関係」がもたらす、夢と希望、そして未来

「何でこんなにも違ってしまったんだろう」。当時、慶應大学SFCの学生だったカタリバ代表・今村久美氏は、それが不思議でならなかったと言う。故郷の岐阜・高山では、どこにでもある普通の高校生。仲間たちもそうだった。しかし、大学入学後に再会した同級生たちは口を揃えてこう言った。「大学がツマンなくてさ



「カタリ場」。車座になって、皆がホンネを語り合う

あ……。自らの大学生活は、希望と刺激に満ち、充実していた。みんな、そういうものだと思っていた。しかし事実は違っていたのだ。「なぜだろう、何が違うんだろう」、考え抜いた結果分かったこと。それは、周囲の環境だった。何でも語りあえて、失敗を許してくれて、親でもない、先生でもない、友達でもない、そんなちよっぴり年上の「人生のセンパイ」たち。カタリバでは、それを「ナナメの関係」と呼ん

「カタリ場」「コラボ・スクール」を軸に、子どもらに夢と未来を

カタリバの主な事業内容は二つ。ひとつが、高校で行われる「カタリ場」の活動だ。「キャスト」と呼ばれる大学生を中心としたボランティアたちが学校を訪れ、グループに別れ

た生徒らと車座になって語り合う。そこでキャストが語るの、自分が高校時に抱えていた想い。当時何を考え、なぜその大学を選び、今どう感じているか、紙芝居形式でプレゼンする。その内容は多種多様で、生い立ちを語る者、友人関係の悩みを明かす者……キャストの数だけドラマがある。そんな「ナナメの関係」たちが語る体験談は、高校生らにとって圧倒的なリアルだ。む

き出しの自分を見せる先輩たちの姿に、次第に惹き込まれる。「また学校に何か面倒なことをやらされる」と斜に構えていた生徒でさえも、グングン前のめりになる。そして、誰にも言えなかった自分のこと、悩みや夢を語り出すのだ。

「大槌臨学舎」を設立、学習指導や子どもとの対話の空間を作っている。その想いの原点は、「震災のせいで志望校や夢をあきらめたという子どもたちを生み出したくないからだ。これまで全国約四五〇校・一〇万人の高校生たちの心に火をつけてきたカタリバ。当時の高校生が、キャストになって帰ってくるようになった。ようになつた。



代表理事 今村 久美

企業データ

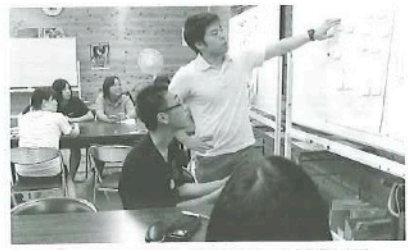
特定非営利活動法人 NPOカタリバ

代表者：代表理事 今村 久美
設立：2001年11月(2006年9月 NPO法人格取得)
職員数：48名(登録ボランティアスタッフ約4,500名)
所在地：東京都杉並区高円寺南3-66-3
高円寺 commons 2F
TEL：03-5327-5667
FAX：020-4665-3239
URL：http://www.katariba.net/
Email：pr-fr@katariba.net

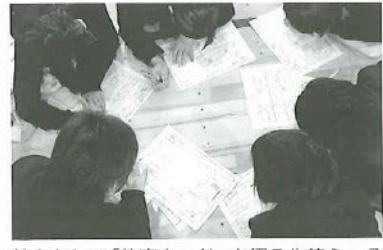
事業内容

高等学校におけるキャリア学習授業「カタリ場」、および東北復興事業「コラボ・スクール」

最後に生徒たちは、目標を綴った「約束カード」を作る。約束する相手は、キャスト、そしてもちろん自分自身だ。終了時刻を迎えても、生徒がその場を離れようとしなくても多々あるという。もうひとつの活動が、東日本大震災の被災地で行っている「コラボ・スクール」。学校・塾・行政・保護者、すべての大人たちがその垣根を超えて子どもたちを支える放課後学校だ。宮城県で「女川向学館」、岩手県で



コラボ・スクール「大槌臨学舎」の授業風景



嬉々として「約束カード」を綴る生徒ら。その表情は希望に満ちあふれている

広報の伊藤宗方氏はこう語る。「私達が目指すのは、一人の100歩ではなく、100人の一歩を後押しすることなんです」。そして「私は将来に不安を感じる」77.7%。「そう思う生徒を一人でも少なくしていきたい」という。

75 ◆「近大エコ出願」本年度より実施◆近畿大学は、出願時における紙の願書の廃止を目指したインターネット出願、地球環境に優しく(エコロジー)、受験生の経済的な負担も減らす(エコノミー)、「近大エコ出願」を本年度の入学試験より実施する。イン

74 ▼インターネット出願者には検定料の割り引きをおこない、利用率を70%まで引き上げることを目標に、達成した場合、次年度の入試より紙の願書を廃止し、完全ネット化を目指す。